



Vol. 53

CONTENTS

- 【コラム】 高等教育機関での ICT 利活用の現状… 稲葉 利江子
【解説】 高校生も学会で発表しよう!—高等学校における研究指導の課題と解決へのアプローチ— 間辺 広樹
【解説】 心を動かすアプリケーションをデザインする—和歌山大学システム工学部におけるコンテンツ制作実習— 床井 浩平

COLUMN



高等教育機関での ICT 利活用の現状



高等教育における ICT (Information and Communications Technology) の利活用は進んでいるのだろうか。

2013年6月の閣議にて決定された「教育振興基本計画」においても、「ICTの活用」が明記されている。この背景には、近年急速に広まりつつある大規模公開オンライン講座 (Massive Open Online Course : MOOC) による講義の配信など、大学の知を世界に解放するとともに大学教育の質の向上にもつながる取り組みの広がりがある。また、従来の対面型教育やオンライン教育に加え、反転授業などに代表されるブレンデッド学習にも注目が集まり、OER (オープンな教育リソース) の効果的な利用方法や学習効果、学習の質保証に関しても関心が高まっている。さらに、今後は学内の学生を対象とした、非公開のオンライン講義である SPOC (Small Private Online Courses) の活用も広がるであろう。

このように、高等教育機関による ICT の積極的な利活用が求められている現状があるが、実際に、ICT 環境をどのように整え、授業内外の教育でどう活用しているのだろうか。

2013年度、文科省の委託調査として、全国の高等教育機関を対象とした悉皆調査が、京都大学を中心としたチームにより行われた^{☆1}。その結果、LMS (Learning Management System) の導入率を取り上げると、国立大学の78.4%で全学導入がなされているが、公立大学は38.8%、私立大学では55.5%と導入率が低いという結果であった。一方、米国などの ICT 先進国を見ると、組織的導入の段階は完了し、ラーニングアナリティクスや学びのパーソナリゼーションという次の段階に移行している。このような状況を1つとっても、我が国でも、組織的な導入と活用を見越した運用が求められる。ただ、8割以上の機関で ICT 活用教育を推進する上で全学的なルールや内規が策定され、推進されており、さらに、ICT 活用教育導入の効果として、「学生の学習意欲の向上」「学生の学習効果の向上」が得られていると回答した機関も多く ICT 活用教育のメリットは結果として見られつつある。今後、次のステップに進み、「教育の質の向上」などに結びつくことが期待される。

2015年秋、大学 ICT 推進協議会^{☆2}の ICT 利活用調査部会では、高等教育機関を対象に、ICT 活用教育の実態調査を行う予定である。部会では、国内外における ICT 活用教育の調査活動を進めることにより、エビデンスに基づいた利活用の未来像提示を目指している。各高等教育機関の担当者の方には、ぜひ、悉皆調査にご協力いただきたい。これらの調査により実態と課題を把握し、地に足をつけた ICT の充実とは何か、そして学生中心の ICT の充実とは何かを考え、ICT 活用を推進すべきではないだろうか。

稲葉利江子(津田塾大学)

^{☆1} 「高等教育機関等における ICT の利活用に関する調査研究」, http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1347642.htm

^{☆2} AXIES, <https://axies.jp/>